

モバイルコンピューティング時代の到来と東芝の役割

Toshiba Playing a Leading Role in the Arrival of the Mobile Computing Era



溝口 哲也
MIZOGUCHI Tetsuya

移動体電話(携帯電話, PHS)は今年5月末には約4,000万台と、全人口当たりの普及率が約33%となり、2000年には6,000万台に達すると予測されています。ノートパソコン(PC)の出荷は、昨年度は302万台、今年度は345万台が見込まれています。また、PHSの32kbpsデータ通信サービス、携帯電話でのデータ通信コストの低減、さらに、SFA(Sales Force Automation)やグループウェアなどのアプリケーション、移動体通信の瞬断などの弱点を補償するためのミドルウェアなどがあいついで商品化されています。これらの状況から、今後モバイルコンピューティングが急速に普及するものと考えられ、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム(以下、MCPCと略記)では、今年には163万人、2000年には583万人がモバイルコンピューティングユーザーになると予測しています。

ただ、現状のモバイルコンピューティングには、いくつかの課題があります。コンピュータハードウェア/ソフトウェアベンダ、通信事業者、システムインテグレータなどが共通する課題解決に取り組むために、当社とNTT移動通信網(株)が中心になり、MCPCを設立しました。すでに、移動体電話とPC/携帯型個人情報機器(PDA)のインタフェースガイドラインの策定、PCと移動体電話を用いて、移動体データ通信の各種実測試験、システム構築・運用ガイドの作成、市場需要予測、普及促進活動など、多方面で積極的な活動を展開しています。当社はMCPCで中心的な役割を果たし、モバイルコンピューティングの普及のために、積極的な活動を展開しています。

モバイルコンピューティング商品の開発においても、DynaBook SSシリーズ、Libretto SSの超薄型、高性能ノートPCを商品化しました。また、Libretto Mobile Packシリーズ、PHS内蔵PDA、わが国のデジタル携帯電話の標準方式であるPDC内蔵PDAなど、通信事業者と連携した商品開発を行っています。さらに、将来のIMT-2000(2000年を目ざし、標準化が進められている移動体通信方式)のサービス開始に向け、モバイルマルチメディア情報端末の開発など、モバイルコンピューティングに照準を合わせた情報端末の開発を進め、本格的モバイルコンピューティング時代の到来に向け、積極的に取り組んでいます。